愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	教育心理学（教育・学校心理学）		
担当者(Instructors)	松尾 香弥子	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本授業では、心身の発達を基にした人間理解の視座から、発達を踏まえた学習支援が有効、適切なものとなるよう、心理学研究の知見と教育現場の調査結果を活用し考察していく。この際、発達及び学習に関する代表的理論、主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価・学習形態、学校教育相談等の基礎的な考え方を学ぶことを目的とする。以上の内容を講義形式で行う。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	基本的に対面の講義形式で行うが、場合によりオンデマンド形式にすることがありうる。１回の授業中に数回程度、無記名アンケートを行って結果を即時に提示したり、teamsで課題に回答を求めたりするといった、インタラクティブな授業を行うため、可能な限り、インターネットにアクセスできるスマートフォン等を持参されたい。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	本授業の目標	授業の到達目標、授業の方針と全体の流れを理解する。個性の理解のための大脳半球優位性テストを行う。	□
第2回	発達（発達過程）の理解	心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、教育における発達理解の意義を確認する。	□
第3回	認知発達の理解	ピアジェの発達理論における発達段階について、また心の理論について知り、認知発達の理解を深める。	□
第4回	人格形成の理解	エリクソンの発達理論、親の養育態度と人格形成、社会性の発達について理解する。	□
第5回	運動発達と言語発達の理解	運動発達と言語発達のそれぞれの発達過程と関連性について理解する。	□
第6回	学習（学習過程）の理解	学習理論（連合理論・認知理論等）から学習過程の理解を深め、発達を踏まえた学習指導の在り方を考える。	□
第7回	記憶	記憶のメカニズムを知り、効果的な記憶法を応用できるようにする。	□
第8回	主体的学習を支える動機づけ	外発的動機づけと内発的動機づけ、原因帰属などを知り、主体的学習への適切な動機づけの方法について理解を深める。	□
第9回	集団づくり	学級集団の人間関係を理解するためのテスト、リーダーシップについて理解を深める。	□
第10回	学習評価の在り方	学習評価の意義や評価の分類等について理解する。	□
第11回	適応の理解	適応機制、マズローの欲求の階層説を理解する。	□
第12回	発達を踏まえた指導の基礎（１）：学力と知能の理解	知能テスト、創造性テスト、学力テストについて理解する。	□
第13回	発達を踏まえた指導の基礎（２）：学校教育相談	教育現場における心理社会的課題及び必要な支援（教育における心理学的援助、心理療法、心理検査）について理解する。	□
第14回	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	主体的な学習活動を支える指導の在り方、学習形態を考える。	□
第15回	本授業のまとめ、教育現場の問題とその背景	本講義のまとめを行う。また教育現場の問題とその背景について資料を基に理解し対応を考える。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

授業中に随時、関連する文献・ウェブサイトや動画等を紹介するので、それらを参照し、授業内容について理解を深める（４時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題は翌週以降にまとめてフィードバックし、内容について、解説とともに解答例を提示する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019人間健康DP1	幼児、児童及び生徒の心身の発達に応じた適切な学習指導を実践する場合の留意点を説明できる。
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	心身の発達を踏まえた適切な学習指導について、問題意識を持ち解決策を探求できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
40%		0%	30%	30%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

成績は、授業中のワークや提出物、授業内試験、レポート試験によって総合的に判断する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	北尾倫彦他著　『精選コンパクト教育心理学』　北大路書房	
2	和久田学著 『科学的に考える子育て エビデンスに基づく10の真実』　緑書房	
3	和久田 学（著）『学校を変える いじめの科学』　日本評論社	
4		
5		